第35回 放送番組審議会議事録

2024年10月31日

株式会社シーエス・ワンテン
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日　2024年9月12日　木曜日　午前10時30分～12時00分

2. 開 催 場 所　株式会社テレビ朝日本社8階特別会議室

3. 委員の出席

委員総数　10名　出席　8名　書面参加　1名　欠席　1名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	（慶應義塾大学名誉教授）
委　員	後藤 洋平	（朝日新聞社東京本社編集局 編集委員）
委　員	高木 美也子	（東京通信大学人間福祉学部教授）
委　員	竹内 章子	（弁護士）
委　員	戸張 捷	（株式会社ランダムアソシエイツ代表取締役）
委　員	前田 純弘	（昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員）
委　員	元村 直樹	（明治大学法学部兼任講師）
委　員	四本 裕子	（東京大学大学院総合文化研究科教授）

＜書面参加＞

委　員	保田 隆明	（慶應義塾大学総合政策学部教授）

＜欠席＞

委　員	藤田 興彦	（学校法人和田実学園評議員）

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長	福田 泉
業務推進本部長	松久 智治

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局総合編成部長	河野 太一
コンテンツ編成局総合編成部サテライトメディア担当部長	谷　俊之
スポーツ局スポーツ2部GP	古賀 佐久子
ビジネスプロデュース局コンテンツ戦略担当局次長	粟井 淳
ビジネスプロデュース局CS事業部CS編成担当部長	中口 裕丈
ビジネスプロデュース局CS事業部CS戦略担当部長	深津 友裕

株式会社文化工房

番組制作局ディレクター	青木 美詠子

4. 番組審議

◆テレ朝チャンネル１

『M:ZINE 完全版～K-POP アーティスト RIIZE の魅力大全開スペシャル』番組審議◆

＜番組内容＞

「M:ZINE」はエンジンと読み、ミュージックマガジンを縮めてエンジンというタイトルにしています。地上波放送では金曜深夜の 1 時 30 分より 20 分の枠で、月 3 回同じアーティストをピックアップし、月末にほぼ倍の尺で CS 完全版としてテレ朝チャンネル 1 で放送しています。

この番組は、主に K-POP アーティスト、および男性女性ボーカルグループをキャスティングし、その後、自社主催イベントへのキャスティングに結びつけていくという意図でやっています。新人アーティストをピックアップし、通常の地上波番組の中ではなかなかピックアップすることのできない一人ずつのキャラクターを丹念に描き、ファンの方々および、アーティストに対し一人でも興味を持ってもらえればということで番組制作を行っています。

今回の審議対象は 1 回目の放送で、司会のメンバーも固定せずというところでしたが、Mrs. GREEN APPLE のギタリスト若井さんが韓国カルチャー等にも非常に詳しく好評なため、現在はレギュラー出演となっています。

〈委員意見〉

○ 国内の K-POP 人気を捉え、RIIZE の魅力を多面的に紹介しており、ファンの満足度が高いと想像される。
○ 進行役のトークが長く、音楽の時間が少ない点が惜しい。
○ RIIZE のメンバーに日本語と英語に堪能なメンバーを入れることで、日本市場やアメリカ市場への戦略が感じられる。
○ ファンはもちろんのこと、RIIZE を初めて見る人たちにも親しみやすく、各メンバーへのインタビューも多いため楽しめる内容になっている。
○ Mrs. GREEN APPLE の若井さんからプロの観点での質問や分析コメントがあれば、音楽番組としてより引き締まると感じた。
○ コアなファンに刺さる内容であり、今後のテレビ局の戦略的にも良いと感じられる。
○ MC3 名の組み合わせと進行のテンポが良く、退屈せずに見られた。
○ インタビューを通じてメンバーの個性や日本語の学び方などが紹介され、コアなファンにとっては貴重な情報が多く、CS 番組として相応しい印象を受けた。

〈番組担当者から〉

貴重なご意見ありがとうございました。
審議対象の番組は放送をスタートした初月の内容で、その後、修正を加えつつ進めています。
これまで長く音楽番組に携わってきましたが、今回、こうした韓国のグループとしっかりと仕事をしてみて、考え方、スタイルの違いを感じ、非常に学ぶところも多いと感じています。今回のゲスト RIIZE は、その後、日本でも大活躍で数多くの番組に出演していますが、この番組が日本に進出して初めての音楽バラエティー出演で、初々しい姿を収められたのは良かったと思っています。頂いたご意見を参考に魅力ある番組にしていきたいと考えています。

◆テレ朝チャンネル２
『ソフトボール上野由岐子 ～私が見た上野さんのあれからとこれから～』番組審議◆

＜番組内容＞
ソフトボールの上野由岐子さんを取材して 10 年以上、小型カメラを持ち、ディレクターひとりで密着取材してもう 5 年になります。ご存知の通り、東京オリンピックで金メダルを獲得し、当時 40 歳前だった上野さん。4 年後のパリオリンピックではソフトボールは正式種目から除外されていたため、引退の可能性もある中、取材をずっと続けていました。そんな矢先に、膝を手術するということを知り、この先の上野由岐子選手を記録しておいた方が良いと思い、密着取材を続けました。すると、話を聞いていくごとに、引退との葛藤、ピッチングの恐怖との葛藤、やはりいい球を投げたいという追求心、心の軌跡というのが本当に面白く、他のアスリートにとっても勉強になるだろうし、また、アスリートでない一般人の私自身も上野さんの取材をしていくと元気になることができました。そのため、ぜひ上野さんのこの心の軌跡を記録して伝えていきたいと番組化を思うようになりました。それから 3 年が経ち、今回の CS での 2 時間の番組が実現し、それを全国に伝えることができたと感じています。

〈委員意見〉
○ 日本のスポーツの商業化は重要な課題。このような番組はその解決にアプローチするもので評価できる。
○ 番組の主眼やメッセージがやや不明確で、視聴者にとってもう少し明確な方向性が示されると良かった。
○ アスリートのセカンドキャリア支援の観点でも有意義な番組であり、異なる人物での続編や類似の番組も視聴したい。
○ 選手としての上野選手はよく分かったが、彼女のプライベートな部分も見たかった。
○ 2028 年のオリンピックでのソフトボール復帰に向け、今後、彼女がどのポジションで関わっていくのか興味深い。
○ 10 年間かけて築いたディレクターと上野選手の信頼関係と、3 年間の取材を 2 時間にまとめた番組は、CS としての良さが詰まったスポーツ番組だ。
○ キャッチャーを「女房役」と紹介した点は時代にそぐわないものであり、配慮が必要だった。
○ 視聴者が金メダリストとしてではなく、その後の上野選手を一人の人間として捉えて焦点を当てており、共感しながら見ることができた。

〈番組担当者から〉
ありがとうございます。上野さんは、実はテレビや取材、カメラが嫌いで、メディアの間でも取材が大変な人ということがあり、いまだに他局のディレクターからも上野さんのインタビューを代わりにやって下さいと言われるぐらいのところから始めているので、10 年かけてようやくここまで来たというところがあります。
プライベートな部分では、家の中の写真は頂いていて、そういったところは見せて頂いていたつもりでしたが、家にはまだまだ上がったことはないため、続編では家にお邪魔し、自炊している姿などを撮らせてもらおうかなと思います。チームメイトやライバルの声はたくさん撮ってはいましたが、2 時間にギュッと縮めたときにいろいろな人の声をカットしてしまったと今考えれば思います。

上野さんは今、監督に向けてコーチライセンスを取り始めて勉強中なので、その様子や、もしかしたら現役で投げているかも知れないものの、次は若手とのバトンの受け渡しをどうするのか、監督業をどうするのかという点を追いかけていきたいと思います。

5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた 2024 年 9 月 12 日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2024 年 10 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

7. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は 2025 年 3 月に開催予定。

以上